

大教スポーツ

学長杯受賞

平成29年度

体育会に所属し年間を通して最も顕著な成績を収めた運動部へ贈られる学長杯。そして競技生活を通じて最も卓越した活動を果たした個人に贈られる学長杯個人賞。今年も両賞を含め計12組に7賞が授与された。本欄では学長杯授賞の女子ハンドボール部および個人受賞者の石井孝典選手にお話を伺った。

女子ハンドボール部

学長杯



本学女子ハンドボール部が高松宮記念杯第53回全日本学生ハンドボール選手権大会（昨年11月3日から7日まで開催、以下全日本インカレ）で準優勝を飾った。同大会には全国の各地区リーグの上位から計32チームが集まり、大学日本一をかけて争われる。同部は3年前に準優勝を果たしているものの2015年度は3位、また2016年度は準々決勝敗退としばらく決勝の舞台から遠ざかっていた。雪辱を期した今回の全日本インカレ1回戦では2016年度準々決勝で敗れており今回も厳しい試合の予想された桐蔭横浜大学が対戦



手に接戦を制し、決勝へと駒を進めた。これらの試合を振り返って杜氏選手は「自分たちがチャレンジをしていかなければ勝てない相手で緊張感のある試合でしたが、楽しむことができました。」と笑顔を見せながら語った。迎えた決勝戦では大阪体育大学と対戦し、惜しくも18対23で敗れたものの、堂々の準優勝で大会を終えた。

また全日本インカレの結果を受けて出場権を得た第69回日本ハンドボール選手権大会（昨年12月19日から24日まで開催）で4回生は引退となり、新チームが始動した。杜氏千紘選手は新チームに向けて、「昨年の1回生から推薦入学による入部制度がなくなると、今年はレギュラーと控え選手が切磋琢磨して、お互いが伸びていくというのがより難しくなっていくと思います。そのなかでも、モチベーションを高く保ち、上回生がチームを引っ張って

――夏の全日本学生選手権に出場して。大会を意識して4年目ということもあり、緊張することなく決勝で戦う意識だけをしっかりとって臨みました。

――緊張はしないタイプですか？

初めての会場では緊張します。器用なタイプではないので、緊張はしつつ放します。ですが、二回目三回目の出場からはきちんと練習の成果を発揮することができそうです。今回の大会は4年連続出場でしたので、落ち着いて競技に集中できました。

――試合から学ぶことはありますか？

ありますね。高校までは前半をとばして、後半は持久戦に持ち込む戦い方をしていましたが、いまは試合を通してきれいなフォームを実現できたり、後半にも体力を温存するよう意識したりして後半が得意になりました。

――水泳の魅力を教えてください。

努力がタイムに出ることですね。ほかの競技に比べて水泳はリレーの他は個人競技なのでいい練習をすればタイムに出るし、間違えた努力ではタイムが伸びません。結果がわかりやすいのが魅力だと思います。

――コーチの指導を生かすためには？

他大学の練習や、選抜の学生合宿に参加したりしています。ただ練習メニューをこなすのではなく勉強させてもらって

――後輩へのメッセージを。

四年間は本当に短いので、スポーツしている人間からすると本当に短くて、一回一回の練習を大事にしてほしい。

――大教水泳部の特徴とは？

基本的に練習メニューは自分たちで組んでいます。僕が主将の時は、主将の僕が水中での練習のメニュー、副主将が陸上での練習メニューを組む形で、話し合って組んでいたのですが、その結果自己ベストが出ると嬉しかったです。

――今後の目標は？

今後も競技は続ける予定です。2020東京オリンピック・パラリンピック出場を大きな目標として、それにつながる目標として日本の上位、そして日本代表を狙っていきたいと思います。自国開催のオリンピックなので、しっかりとチャンスをつかめるように頑張っていきたいと思っています。

水上競技部

4回生

学長杯個人賞

石井孝典

選手

〒582-8582 大阪府柏原市旭ヶ丘4-698-1

大教スポーツ

平成30年3月23日(金) 6号

発行 大阪教育大学体育会
編集長 林洋輔(保健体育講座講師)
編集員 大西翔太(陸上競技部)/野口慎太郎(準硬式野球部)/平井響(空手道部)/河野仁平(バドミントン部)/最相葉名(L.S.B.)/篠原直将(男子ラクロス部)/渡辺夏樹(スキー部)/鉾立政公(ラグビー部)/要南帆(民族舞踊部)/島瀬湧太(男子ラクロス部)/中原渉(卓球部)

2面	今年度活躍した個人・団体(フィギュアスケート部・男子ラクロス部)今年度上半期の体育会成績一覧
3面	女子硬式庭球部 活動紹介 学長杯受賞者・団体一覧
4面	準硬式野球部 阪神六大学秋季リーグ 第2位獲得 我が体育会(第6回)谷川哲朗 特任講師 編集後記



平成29年度上半期 主な成績・活動一覧

来たる入れ替え戦、1部の舞台へ!! 男子ラクロス部

男子ラクロス部は2部リーグ3位、1部リーグの京都産業大学との入れ替え戦を直前に控え、男子ラクロス部主将の栗秋太一さん（教員養成課程数学専攻4回生）にお話を伺いました。

――部の雰囲気はいかがですか？

「明るく活発に練習に取り組んでいます。練習中は一人一人が声を出し、静かに黙々と、というよりも励ます声や時には厳しい声も掛け合いながら、1部昇格という目標に全員が一心となって取り組んでいます。入れ

替え戦が近づいているので、全体での練習が終わった後に残って個人練習をしている部員も増えており、より一層チームの団結力が強まっていると感じます。」

――栗秋さんがラクロスを始めたきっかけはどのようなものですか？

「高校ではサッカー部に入っていました。入学時、大学で部活をするつもりはありませんでした。たまたま男子ラクロス部のピラを見て、友人と一緒に見学に行ってみると、入部を決めました。入ってからケガなどにも悩まされたこともあり、

意外と危険なスポーツだったということを入部してから知りました。」

――入れ替え戦に向けての抱負を聞かせて下さい。

「2017年度チームが出来てから今まで約1年間のチームとしての集大成と、自分自身のラクロスをしてきた4年間の集大成を見せる試合だと考えています。結果は当然残したいですが、最後は楽しく笑って終わりたい、という思いもあります。」

4回生はこの入れ替え戦をもって引退となり、その後は、新チームとしての活動が始まります。

次期主将である納誠さん（教員養成課程社会専攻3回生）には次年度の抱負を伺いました。

「引退していく4回生やOB・OGの方々が大きくしてくれた男子ラクロス部ですが、まだ歴史の浅いチームでもあります。これまで男子ラクロス部の先輩方の



栗秋太一さん(教員養成課程数学専攻4回生・奥)

「氷上の芸術家」フィギュアスケート部活動紹介!! フィギュアスケート部



インタビューに答えてくれた岩佐戸菜々さん(美術教育専攻2回生右)と同じ部で切磋琢磨しあう森脇由衣さん(同左)と。

――普段どこでどのような活動をしているのですか？

普段は近鉄大阪難波駅から歩いて5分の浪速アイスクリーム場というところで土曜日の午後2時から午後5時までコーチの方の指導を受けながら練習しています。

――フィギュアスケー

ト部に入ろうと思ったきっかけを教えてください。

スケートを始めたのは大学に入ってからなのですが、小学生の頃からよく母と一緒にスケートをしに行くことが多く、その時からスケートをするのが好きでした。そして、大教大に入る前にフィギュアスケート部があるということを聞き、

入ろうかなと思いましたが、当時は先輩がいなくて、フィギュアスケート部の存在自体みんなにあまり知られていない状況でした。その後なんとか顧問の先生を見つけて、今は2人で活動しています。

――フィギュアスケートの面白さと難しさはありますか？

スケートをしていて面白いと思うのは滑ることです。氷の上で速く滑るといえるのは普段はなかなかできないような体験なのでそういったところが楽しいと感じます。難しいのは氷の上でバランスをとることです。スケー

トはエッジ（スケート靴の刃の部分）を傾けて色々な技をすることで評価されるのでそこで上手くバランスをとるのが難しいです。

――今後の目標は何ですか？

まず、バジテストといたったものがあるんですが、その初級は受かったのが、次の一級に合格することが目標です。しばらく練習に取り組んで、次のバジテストに臨みたいですね。大会はA級、B級、C級、D級今はD級の大会に出ていて、バジテストの級ごとに出来る試合も決まっていますので、級を上

げてC級の大会も出れるようになりたいです。

※バジテスト…大会に出るために必要な級（初級から8級）を取得するためのテスト。級によって出られる大会が決まっており、例えば、日本選手権に出るには7級が必要。

――最後に在学生や新入生に向けての一言をお願いします。

最近フィギュアスケートはテレビなどでよく取り上げられたりしてと思うので、そこでも興味があれば一度見学に来て下さい。男子も女子もどちらも歓迎します！よろしくお願いします。

部 活 名	大 会 名	成 績
男子バスケットボール部	関西学生バスケットボールリーグ	1部昇格
女子バスケットボール部	関西女子バスケットボールリーグ	2部9位
男子バレーボール部	関西学生バレーボール春季リーグ	2部昇格
女子バレーボール部	関西学生バレーボール春季リーグ	4部3位
男子ハンドボール部	関西学生ハンドボール春季リーグ	2部昇格
女子ハンドボール部	全日本学生ハンドボール選手権大会	準優勝
ラグビー部	近畿地区国立大学体育大会	準優勝
アメリカンフットボール部	西日本学生大会	準優勝
硬式野球部	近畿学生野球リーグ戦	2部3位
準硬式野球部	阪神六大学準硬式野球連盟春季リーグ戦	2位
男子サッカー部	関西学生サッカーリーグ	2部残留
女子サッカー部	関西学生女子サッカーリーグ	2部6位
硬式庭球部	関西リーグ	女子1部2位、男子2部昇格
ソフトテニス部	関西秋季リーグ戦	男子2部昇格、女子4部残留
卓球部	近畿地区国立大学体育大会	男子団体ベスト4
剣道部	西日本学生剣道選手権大会	男子団体2回戦進出
柔道部	関西学生団体	男子団体2部ベスト8
合気道部		特になし
空手道部	川西市空手道大会	優勝、準優勝、3位
体操競技部	関西学生体操選手権大会	出場
陸上競技部	関西学生陸上競技選手権大会	男子1部8位
バドミントン部	秋季リーグ戦	男子3部3位、女子2部8位
水上競技部	関西学生選手権水泳競技大会	男子1部5位、女子1部7位
スキー部	全日本学生スキー選手権大会	男3部10kmフリー3位
民族舞踊部		特になし
モダンダンス部		特になし
男子ラクロス部	関西学生リーグ戦	2部リーグ3位 2部残留
女子ラクロス部	関西学生ラクロスリーグ	1部5位
弓道部	近畿地区国立大学体育大会	女子団体戦優勝
L.S.B.		特になし
山岳部		特になし
フィギュアスケート部		特になし

硬式庭球部女子が関西リーグ1部準優勝!!

——部活の雰囲気はいかがですか？

清水 部員は8人と少人数ですが、いつも雰囲気良く練習しています。先輩後輩関係なくとても仲が良いです。

——硬式庭球部のいいところはどこなところですか？

清水 団体戦などで他の大学に比べて部員が少ない分、チームで支え合い協力し合って勝利してきました。この「チーム力」が私たち硬式庭球部のアピールポイントです。

——普段はどのような練習をしていますか？

清水 週に4回練習があります。そのうち2回は基本練習を行い、残り2回は試合形式で練習を行います。基本練習だけでなく試合練習も行っているのは、他にはない独自の練習かと思っています。



奮闘する田中千愛(教養学科スポーツ専攻4回生)

日々練習に精を出し、男子10人、女子8人で目標に向かって進み続ける硬式庭球部。日々部員を引っ張っている女子部長の清水梨沙選手(教養学科スポーツ専攻/3回生)にインタビューしました。

——リーグ戦では1部で準優勝という成績を残されましたが、今年度のMVPを1人挙げるとすれば誰になりますか？

清水 教育協働学科スポーツ科学専攻1回生、浦上喜帆選手です。1回生ながらレギュラーとして、プレッシャーをはねのけて活躍してくれました。リーグ戦では1番手として勝ってくれていたのです、その流れに乗ってチームも勝つことができましたと思います。

——これからの活躍を期待している選手は誰ですか？

清水 教育協働学科スポーツ科学専攻1回生、



見事1部準優勝に輝いた硬式庭球部女子部員一同で記念撮影

北村梨乃選手です。

リーグ戦では惜しくも出ることができず、悔しい思いをしたはずですが、その悔しさをバネにして、次のリーグ戦ではレギュラーを勝ち取り活躍してほしいです。

——最後に部としての今後の目標を教えてください。

清水 来年度のチーム

は、今年度と同じチームというわけにはいきませんが、新しいチームになっても勝てるように頑張っていきたいです。そして来年こそは1部リーグで優勝したいです。



平成29年度体育会学長杯受賞者・団体一覧

タイトル	受賞者・団体	主な受賞理由
学長杯	女子ハンドボール部	全日本ハンドボール選手権大会 準優勝 関西学生トーナメント選手権大会 1部2位
学長杯個人賞	石井 孝典(水上競技部)	2017年日本選手権 200m平泳ぎ17位 2017年日本学生選手権大会 200m平泳ぎ6位
殊勲賞	硬式庭球部	関西リーグ 女子1部2位 男子2部昇格
	男子バスケットボール部	関西学生バスケットボールリーグ戦 1部昇格
	岩下 美桜(陸上競技部)	2015年全日本インカレ 女子走り高跳び3位
	宇野 史織(女子ハンドボール部)	2017年全日本学生ハンドボール選手権大会 優秀選手賞
敢闘賞	吉田 健太郎(男子バスケットボール部)	2017年関西学生バスケットボールリーグ戦 2部得点王、3P王、フリースロー部門4位
	川畑 拓海(弓道部)	2017年 全日本学生弓道選手権大会 決勝進出
体育会会長杯	水口 由里(女子ラクロス部)	2017年関西選抜選出 2017年関西女子ラクロスリーグ ベスト12選出
体育会顧問奨励賞	大歳 香珠(女子サッカー部)	日々の部活動において、選手の支えとして活躍
	足立 悠太(準硬式野球部)	2017春季リーグ本塁打王、ベストナイン選出
体育会特別賞	剣道部	西日本学生剣道選手権大会 男子団体2回戦進出 女子団体3位 近畿地区国立大学剣道大会 男子団体優勝 女子団体優勝

準硬式野球部 第2位

阪神六大学秋季リーグ



インタビューに答えてくれた
松本諒仁さん(教養学科教育科学専攻3回生)

——第2位になった感想などをお聞かせください。
初めの4戦は1勝3敗で6位と低迷していましたが、順調に勝ち星を重ね2位へと登りつめました。優勝へとあと一歩のところまで優勝校との直接対決で負けてしまいました。2位まで順位を上げたことで戦える実力がついていることほうれしかったです。優勝まであと一歩のところまで勝ちきれなかったという悔しさは残ります。

——第2位の成績を収めるまでに勝ち上がった勝因とはなんだと思いますか？
去年までは守備を重視していましたが、です

が、点を取れずに負けていたのが今年はバットイング重視に切り替えました。去年から鍛え上げてきた守備力に加え、夏合宿を含め重点的に行ってきたバットイング練習の成果が出て、得点力が上がったと思います。

——キャプテンになって実感したことなどお聞かせください。
最初はいきなりキャプテンになってしんどいことが多かったです。みんなをまとめるのが難しかったり、自分の意思が伝わらなかったりと苦労することが多々ありましたが、その中でもキャプテンとして成長できる部分がたくさんありました。あと半年と短い時間ですが、キャプテンとしてチームとして成長を続けていきたいと思っています。



試合前にメンバーで円陣を組み「一致団結」(秋季リーグにて)

——次の大会への抱負をお聞かせください。
次の試合は春季リーグで、今回の秋季リーグと同じ大学で戦います。その中で今回惜しくも2位だったのでそこで優勝して、その先にある全国大会への出場を1番の目標として掲げたいと思います。そのためには今以上にチームの結束力を上げ、週3日という少ない練習の中の練習の質を上げて、今回の悔しさをバネに目標を達成したいと思っています。

現役生に贈る言葉



谷川哲朗先生

大阪教育大学 教育協働学科スポーツ科学専攻 特任講師 谷川哲朗先生

フィンスイミングを始めるまで
5歳の頃から水泳を始め、中学生時代はテニス部に所属しながらスイミングスクールに通っていました。中学1年生の時に初めて全国JOCジュニアオリンピックカップ夏季水泳競技大会にバタフライの選手として出場しました。高校では競泳一本に道を絞って水泳部に入学し、高校3年生の頃にはジュニアオリンピックカップで3位に入賞しました。高校卒業後は、競泳に打ち込みたい、そして教員になりたいという想いもあったことから本学の教養学科スポーツ専攻に推薦入試で入学しました。在学中は、日本学生選手権水泳競技大会に4回、日本選手権水泳競技大会にも3回出場しました。フィンスイミングとの出会いは、高校3年時の豊中市民大会のデモンストレーションで、大学3回生の時に他大学の先輩からの誘いでフィンスイミング東海大会に出場しました。その後、本学大学院(教育学研究科健康科学専攻)に進学し、競泳だけでなくフィンスイミングにも打ち込みました。

フィンスイミングの普及について
日本では、中国や韓国などの諸外国と比較してフィンスイミングがメジャーではありません。自分が魅力を感じたフィンスイミングをもっと日本で普及させたいという想いから、マスターズの水泳大会や豊中市のプールで、子どもからお年寄りまでの幅広い人々を対象にしたフィンスイミング体験会の開催に尽力しました。また、体育・スポーツが苦手な人にも目に触れる機会を増やすために、学校のクラブ活動でフィンスイミングを取り入れるための活動をおこなってきました。こ

我が体育会 第6回



2017年度第29回フィンスイミング日本選手権大会
50mサーフィス決勝にて(中央が谷川先生)

「温故知新」をテーマに、本学体育会とゆかりのある先輩方にインタビューをする企画。第6回となる今回は、本学の体育会水上競技部のOBであり、「フィン」と呼ばれる足ひれを装着して行う水泳競技であるフィンスイミングでも輝かしい成績を収めて2017年度より特任講師として本学の授業を担当されている谷川哲朗先生にお話を伺いました！

れからは、自分が普及活動をするだけではなく、その普及活動のための人材育成にも力を入れていきたいです。

大阪教育大学の体育会に所属する皆さんへ
私は大学時代にアメリカへ留学したり、他大学の体育・スポーツ関連の



チームメイトたちと記念撮影

講義を聴講しに行ったり、他大学の練習に参加しに行ったりと、積極的に学外に出ていきました。皆さんには、自分の夢や目標に向かって、殻にこもらず、積極的に学外に出て、たくさんものを吸収しようとする姿勢を大切にしてもらいたいと思います。また、皆さんがスポーツに限らず、学業もしっかり取り組み、素晴らしい社会人になることを楽しみにしています。これからも頑張ってください！

主な成績

- 2007年8月 イタリア・パトリ
14th CMAS World Championships(フィンスイミング世界選手権)
200mCMASビーフィン 1分44秒00 第5位 アジア新記録
- 2008年11月 中国・煙台
11th CMAS Asia Championships(フィンスイミングアジア選手権)
100mCMASビーフィン 45秒72 優勝
200mCMASビーフィン 1分42秒14 優勝 アジア新記録
- 2009年8月 ロシア・サンクトペテルブルク
15th CMAS World Championships(フィンスイミング世界選手権)
200mCMASビーフィン 1分41秒67 第6位 アジア新記録
- 2010年11月 台湾・高雄
12th CMAS Asia Championships(フィンスイミングアジア選手権)
200mCMASビーフィン 1分43秒12 優勝
4x100mサーフィスリレー 2分39秒63 第5位 日本新記録
- 2017年12月 中国・煙台
16th Asian Fin Swimming Championships(フィンスイミングアジア選手権)
100mサーフィス 37秒52 第6位
4x100mサーフィスリレー 2分29秒81 第4位 日本新記録

編集 後記

今号から編集主任を拝命しました保健体育専攻3回生、陸上競技部主将の大西翔太です。慣れない作業の連続でしたが、今号はできるだけ多くの体育会所属団体を紹介するべく編集に努力いたしました。しかしながら、新聞の編集に携わったのは小学校の社会科の授業以来ではないかと思われる僕にとってこの作業は苦勞の連続でした。全団体を取り上げて掲載することのできなかったことが誠に残念ですが、本学体育会に所属する皆さんの益々のご活躍お祈り申し上げます。

また今号より保健体育講座講師であり僕の所属ゼミのボスでもある林先生に編集の基本と心得、そして技術についてご指導いただきました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。最後にになりましたが、今号の編集、取材に関わっていただいた全ての方に心からの感謝を申し上げ、編集後記といたします。